

いわき農林事務所ニュース

2006年 8月号



活動状況

- ・ [環境にやさしい農業の取り組み](#)
- ・ [食農教育の取り組み](#)
- ・ [渡辺小の「田んぼの学校」その5](#)
- ・ [田んぼの生き物調査](#)
- ・ [カワニナ放流](#)
- ・ [農作物技術対策会議](#)

トピックス

- ・ [「あじさい祭り」が開催](#)
- ・ [流域林業活性化セミナー開催](#)
- ・ [クロマツ林の下刈り活動！](#)
- ・ [集落営農への一歩](#)

活動状況

環境にやさしい農業の取り組み ～エコファーマー30名を認定～

7月7日、JAいわき市本店でエコファーマー認定証交付式が開かれ、30名が新たにエコファーマーに認定されました。

作物別には、水稻16件、ナガイモ14件、サヤインゲン2件の合計32件で、ナガイモとサヤインゲンがいわき地方では初めて認定されました。

特に、ナガイモでは、JAいわき市の「いわきとっとり芋赤沼生産部会」の全員14名が認定されました。「とっとりいも」はナガイモの仲間、独特の粘りととつくりのようなユニークな形が特徴で、いわき地方の特産品として多くの消費者に親しまれており、今回エコファーマー認定で今後評価がますます高まることでしょう。

いわき地方のエコファーマーは、今回の認定で233名、271件に達しました。8月下旬にはJAいわき市梨(なし)部会において、既に認定されている1名を含めた全会員153名がエコファーマーとなる予定で、さらに環境にやさしい農業が広がっていくものと期待されています。



今回エコファーマーに認定された皆さん

食農教育の取り組み

～いわきの郷土食をつくる会を小学生が体験！～

7月12日、好間(よしま)第一小学校において、「地元の食材・旬を知ろう」をテーマに総合学習の一環として「いわきの郷土食をつくる会」を6年生47名が体験しました。講師は、いわき生活研究グループ連絡協議会(以下(い)か生研グループ)の3名と農林事務所職員が努めました。今回の体験は、「いわきの郷土食をつくる会」の活動を知った学校の先生から要望があり実施されました。

内容は、「夏野菜の膳」と題して、旬の食材を使った「新ジャガイモの味噌炒め」「新タマネギとサヤインゲン味噌汁」「きゅうりなます」「なすの素揚げ」の調理を実習しました。まず、食材の「旬」、きゅうりのなり方、ブルーム・ブルームレスきゅうり、ジャガイモの花の色のちがいや新タマネギ、新じゃがいものいわきでの旬等を説明しました。子供達は、その話に驚きながらも目を輝かせていました。

その後は班に分かれて、子供たちは生研グループの皆さんと活発に意見交換しながら積極的に実習をおこなっていました。調理実習で作った4品に、生研グループの皆さんが準備した「古代米(まい)ごはん」「きゃらぶき」「もろきゅう」「しそジュース」を加え、大変美味しく健康的な「夏野菜の膳」ができました。その後、全員で試食を行い「食べたことのあるものないもの」や「お互いの好きな物」などいろんな話に花が咲いていました。

生研グループの皆さんは、「子供たちに旬の食材、自分たちの作った野菜を食べさせたい」という思いと子供たちの思いが通い合った一日でした。

次回は9月に「月見の膳」を予定しており、生研グループの皆さんは、今から子供達にどんなメニューを体験して味わってもらおうか、楽しみながらも悩んでいるようでした。



食材の「旬」についての説明



完成した「夏の膳」

渡辺小の「田んぼの学校」 その5

渡辺小学校の「田んぼの学校」において、7月13日に「かかしづくり」、7月26日に「かかし立て」と「田んぼの運動会」を行いました。

「かかしづくり」は、5年生15名が「かかしの役割」や「かかしの由来」について勉強した後、実際にかかしづくりを行いました。作業は、竹で骨組みを固定し、ワラで肉づけし、服を着せて、顔を描くという手順で行いました。肉づけ作業までは静かにしていた児童たちでしたが、服を着せたり顔を描いたりする作業になると、「この服がイイ!」「顔描いてイイ?」等と、賑やかになっていきました。そして、ユニークな3体のかかしが出来上がりました。

「かかし立て」と「田んぼの運動会」は、夏休みに入ったこともあって、5年生以外の児童も参加し、総勢20名で行われました。まず、前回(上述)作成した「かかし」3体を分散して立てました。かかし立ては、鳥等の外敵から稲を守る効果が期待されます。その後、田んぼの運動会では、ドッジボール・リレー・鬼ごっこの3競技を行いました。最初に行ったドッジボールでは、昨年度同様にボールにドロをすり付けて投げる児童がたくさんいたため、児童たちは泥んこになってしまいました。次のリレーでは、競技後「もう1回やりたい!」「今の自分の走りが納得できない!」等の声上がり、結局2回行いました。最後に、田んぼの端から端まで使い「鬼ごっこ」を行いました。この田んぼは作付けしておらず、雑草がたくさん生えていましたが、走り回することで雑草が土中に埋まったり、また土が掘り返されることで土壌がリフレッシュされ、遊びながらも田んぼにも良い効果があったようです。



かかし作り



かかし立て



ドッジボール中に寝そべる児童?



やっぱりどろんこになりました!

次回は、9月28日に「稲刈り」を行います。昨年度は稲が倒れ大変な作業となりましたが・・・今年は今のところ順調に生育しています!

田んぼの生き物調査 ～大野第一小学校での取り組み～

7月14日、田んぼの生き物の調査が大野地区で行われました。

田んぼの生き物の調査は、水田の周辺水域に生息する生物の実態把握を目的に、全国的に調査が行われているもので、今回は大野第一小学校の3、4、5年生38名が地元関係者やアクアマリンふくしまの研究者とともに、学校の南側の田んぼで調査を行いました。

調査当日は、まず「なぜ田んぼまわりの調査をするのか」「調査結果をどのように役立てるのか」等を学習し、その後3班に分かれて現地へ移動し、環境調査（調査箇所の環境測定）、サカナ調査（サカナの種類や個体数の調査）、カエル調査（カエルの種類と個体数の調査）という順序で行いました。

環境調査では、水路の水温や水深、流速、pH（水素イオン濃度）、COD（化学的酸素要求量）等を測定しました。CODとは水の汚れ度合いをおおまかに数値化したものです。調査した水路の水は、生きものの生息には問題ありませんが、飲み水にはできない水質という結果でした。

続いて、2種類の網で捕れたサカナを調査しました。まず、水路の中にあらかじめ仕掛けておいたカゴ網を引き上げ、網の中の生きものを調べました。フナやタモロコ、ドジョウ等がたくさん捕れ、児童達は、「いっぱい捕れたよ!」などと興奮した様子でした。採捕後は、アクリルの水槽に入れて、体長計測や写真撮影を行いました。カゴ網の後には、児童一人一人がタモ網を使って、水路内の生きものの採捕に挑戦しました。捕れた生きものの種類はカゴ網とほぼ同じでしたが、児童達が頑張った甲斐あって、数はカゴ網の2～3倍にもなりました。

最後のカエル調査では、水路周辺をくまなく歩き、タモ網を使ってカエルを採捕しました。捕獲したカエルは、フタ付きのパケツ等に収めていきましたが、収める瞬間に逃げられそうになったりと、採捕には大変苦労していました。写真撮影では、カエルを両手で包むことで、元気なカエルがピタリと身動きしなくなるというワザが披露され、児童達は「すごい!」「どうやるの?」等と興味を持ち、最後にはそのワザをマスターしていました。

現地での調査が終了した後、各班から調査結果が報告されました。その後、アクアマリンふくしまの研究者から、「今回捕れたキンブナは大変珍しい」等の話があり、身の回りの田んぼで珍しい魚が発見されたことに児童たちは驚いていました。平成16年には近隣小学校でも同様の調査が行われているため、今回の調査結果と比較することで、大野周辺の環境を調べる貴重な資料になったのではないかと思います。



生きものいっぱい捕るぞー!



カエルいるかなー?



この魚の種類は何かなー?

ゲンジボタルの餌となるカワニナを放流しました!

7月18日、三和(みわ)町の生態系保全水路(通称ホタル水路)において、ゲンジボタルの餌となるカワニナ(巻き貝の一種)の放流が行われ、沢渡小の全校児童41名と三和(みわ)土地改良区関係者等が参加しました。

この水路は、ゲンジボタルの定着を目指し、平成17年度に県営中(ちゅう)山間地域総合整備事業(三和(みわ)地区)において人工的に整備した水路です。今回のカワニナ放流は、ホタル生息の一条件である「餌のある環境づくり」を目的として実施しました。

当日は、児童を対象に「ゲンジボタルとヘイケボタルの違い」「どんな餌を食べるのか」等の説明を行い、その後児童一人一人が、「大きくなってね!」「増えますように!」等との願いを込め、約400匹のカワニナを水路全体に放流しました。

児童や地元の人達は、放流したカワニナが増え、ゲンジボタルがいち早く飛び交うことを期待しており、今後はカワニナの餌となる水生植物の定植等を行いながら、カワニナ及びゲンジボタルの生息状況を観察していきます。また、この環境を維持するため、地元の人達と話し合いながら管理していく予定です。

そして、数年後にはホタルが飛び交い、名実ともにこの水路が「ホタル水路」となる日まであたたかく見守って頂きたいと思います。三和(みわ)町にお越しの際は、どうぞお立ち寄りください。



全員が並んで放流

長雨と日照不足等に係る農作物技術対策会議が開催される

7月26日、梅雨入り以降続いた例年になく長雨と日照不足による農作物への影響を最小限に抑えるため、農林事務所、市関係課、各JAなど関係機関・団体による技術対策会議が開催されました。

会議では、まず各農作物の生育状況や病害虫発生状況等について出席者から報告があり、これまでの気象経過とともに農産物の現状について情報の共有を図りました。特に、注意報が出ている水稻のいもち病(びょう)については、山間部を中心とした発生状況と今後の拡大の可能性について活発な意見交換が行われました。

この後、農作物の現状と今後の気象予報に基づき水稻をはじめネギ、キュウリ、ナシ等主要な農作物の管理、病害虫対策についての技術対策が検討されました。今回の検討結果を踏まえ、管内農家へ技術対策資料を全戸配付し農作物技術指導の徹底を図ることが申し合わされました。



活発に意見を交換

トピックス

第4回「治右衛門(じえもん)の堰 あじさい祭り」が開催されました!

7月2日、第4回治右衛門(じえもん)の堰「あじさい祭り」が開催され、約500名が参加しました。

あじさい祭りは、農業用水路の維持管理を行なっている水土里ネット愛谷堰(愛谷堰土地改良区)を中心とした愛谷江筋(えすじ)愛護会が、緑化の推進・水環境の保全を通して、環境に関する意識の高揚や、地域間の交流の促進、そして広域的な地域づくりを行うと、広く参加者を募る手作りのイベントです。苗木の挿し木づくりから定植までを行い、愛谷江筋(えすじ)沿いをあじさいの花でいっぱい(目標:1万本)にしようと進められており、現在までに約5千4百本のあじさいが植えられてきたそうです。

当日は、天候に恵まれ、あじさい300本定植のほか、クイズ大会、散歩道ウォーク、あじさいの挿し木づくり等、多彩なイベントが催されました。各コーナーとも工夫がこらされ、子供だけでなく大人も夢中で楽しむ場面が見受けられました。水土里ネットの活動紹介の展示ブースでは、風船がプレゼントされたこともあり、多くの子供たちが集まり、賑わいを見せていました。また、流しそうめん、やきそば等の出店や、豪華賞品の当たる大抽選会等もあって、大盛況のうちに幕を閉じました。

来年も、多彩な楽しいイベントと併せて開催される予定ですので、皆様ご期待下さい。

治右衛門(じえもん)の堰「愛谷江筋(えすじ)」は、今から330年ほど前の江戸時代初期(延宝2年)に、三森治右衛門(じえもん)氏によって作られた約2.1kmの農業用水路で、いわき市平赤井の愛谷頭首工から取水し、町中を流れて下流の白土、夏井、高久地区までの夏井川右岸を潤しています。農業用水としての歴史的価値のほかに、洪水調整や防火用水、地域用水の機能を兼ね備えており、地域にとって欠かせない施設です。



開会式の様子



あじさいを見ながら散歩道ウォーク!

流域林業活性化セミナー開催される

7月7日、流域林業活性化セミナーが報徳苑で開催されました。

このセミナーは、磐城流域林業活性化センター主催で、地域材を利用した木造住宅の推進を図るため毎年開催しており、今回は、拓翔一級建築事務所の福本雅嗣所長が講演しました。

福本所長は、住友林業住宅本部長建築部長などを務め、退職後に拓翔一級建築事務所を設立され、林野庁の木材需要予測部委員会委員、国産材新流通・加工システム委員会委員なども務めています。

「真に品質管理された住宅を供給することはプロとしての責務である」と題した講演では、住宅着工戸数の大幅な減少に対応するには、「木材の品質管理の徹底」「木材価格等の消費者への情報提供」「設計者・工務店・素材生産者の協議体制の整備」が必要と訴え、「エンドユーザへのつながりを深めていくことが重要である」と話されました。

当日は、建築士や木材産業関係者、行政関係者ら約70人が出席し、今後の木造住宅の動向等木材産業の活性化に向けた話に熱心に聞き入っている様子で、有意義なセミナーとなりました。



福本氏による講演

「新舞子ふれあいの森」でクロマツ林の下刈り活動！

7月9日、いわき青年林業会議所主催によるクロマツの下刈り活動が、いわき市平下神谷で実施されました。この活動は「新舞子ふれあいの森」森林整備事業として、平成12年から行っている海岸林の保全活動のひとつで、今回で12回目を迎えました。

これまでの活動で植栽した苗木は、クロマツ約5,000本、マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ150本で、面積は約1.00haです。

この日は、同会議所のメンバーをはじめ、市民ボランティア、磐城森林管理署、県及び市の職員等およそ40人が参加しました。

参加者は、腰のあたりまで伸びたススキなどの雑草の中から植栽したマツを探し、マツを傷つけないように大鎌や草刈り機で下刈りを行い、作業に汗を流しました。



マツを探しながらの下刈り作業



作業が進み、クロマツが見えてきました

集落営農への一步

～大野第一地区農用地利用改善団体設立される～

7月22日、四倉町駒込改善センターにおいて、「大野第一地区農用地利用改善組合」の設立総会が開催されました。

大野第一地区では、平成17年度より基盤整備事業が実施されており、今回の事業を契機に集落営農のあり方を地域で考え、農地の調整などを効率的におこなうとともに、地域の活性化につなげることを目的に当団体が設立されました。

組合の構成員は、四倉町駒込地区と一部の上柳生の農家の皆さんで、初代組合長には駒込農事組合長でもある杉山忠さんが選任され、その他役員15名を中心に運営されていくこととなりました。今後、諸手続きを行い、いわき市における認定を8月に受ける予定です。



設立総会の様子

◀ もどる

すすむ ▶

[[Top](#) [福島県トップページ](#) [いわき農林トップページ](#)]